

演 題	そうだ野菜を作ろう
副 題	若い人に教えたいたい事が沢山あるよ

フリガナ	ナーシングプラザミタマ
施 設 名	ナーシングプラザ 三珠
フリガナ	ドバシ アキオ
発表者(職名・氏名)	土橋 明夫
フリガナ	
共同研究者	通所リハビリテーション職員一同

現在、当施設のデイケアでは40代後半から90代後半のご利用者様まで約60名がご利用されております。年齢層も好みも各人各様であり、何かご利用者様が一体になって取り組めることはないかと、ご利用者様と職員で話し合いました。いろいろな意見の出る中で、多くのご利用者様が野菜作りをやりたいとのご意向を表明され決定に至り、今回のプロジェクトが動き出しました。

デイケアの日常は、ともすると施設職員主導によるレクリエーションやリハビリが主となっており、ご利用者様が主体として行動することは少ない傾向にあります。幸い、当施設は農業の盛んな地域に立地しており、ご利用者様についても、農業に携わっておられた方が多くおられました。野菜作りを最初から最後までご利用者様が主体となって取り組んでいただくことで、デイケアへ通う楽しみと昔を思い出す回想法が出来たらと考え実施いたしました。

5月から取組み、品目はキュウリ・トマト・なす・スイカの4種類。培養土ではなく施設の土を活用し、肥料のみ購入することとしました。また、業者から発泡スチロールの箱をいただきプランターに代用しました。野菜作りは、その成長の様子を確認しやすいように、室内から見やすい位置に配置し、野菜作りに取り組むご利用者様の様子を記録するよう「野菜作りノート」を調整しました。

野菜が成長しだす頃には、朝、施設に到着すると、うがい、手洗いもそこそこに自ら野菜のところに行って水やりをするご利用者様。鋏を手に取り収穫に向かうご利用者様。職員に水やりをするようハッパをかけるご利用者様。つるをもっとしっかりと止めないと野菜がダメになってしまうと怒り出すご利用者様。以前は椅子に座ったままトイレ以外は歩くこともないご利用者様も変わり始めました。

6月になると、野菜・果物を収穫する機会が増えました。職員とご利用者様が一緒になって、キュウリなどを刻み、塩揉みして、昼食と一緒に提供したところ「おいしい、おいしい」の声をあちらこちらで聞くことができました。また、形のおかしな野

菜が採れた時には、職員が「目」をつけ「口」をつけて、ヘビやイルカのように加工し、テーブルの飾りにしたところ、感心して見入り、笑っているご利用者様の姿を見てほほえましく感じました。

7月に入り、8割方野菜も実をつけて収穫の時期となりました。スイカも収穫し、小さいながらも切り分けておやつに提供すると、思った以上に甘さもあり、ご利用者様も驚かれていました。

ご家族様宛に収穫の通知と採れた野菜を少量ながら全戸に配布しました。ご利用者様、ご家族様からの感想として、「おいしかった」との感想が多く聞かれました。感想の中で特に印象深かったのはご利用者様からの「野菜作りの手伝いをしたかったが、体が思うように動かず、外にも出られず何の手伝いもできず残念で悲しい」、ご家族様からはご利用者様が家へ帰ってから野菜作りの話を今までとは違って明るい表情で話してくれ、今まで以上に会話をするようになったとの感想が多く寄せられた事でした。

例年にない猛暑の中、枯れてしまうのではないかと心配していた野菜作りであったが、今もご利用者様の思いを受けて、すくすくと野菜は育っています。

短い期間の活動であったが、ご利用者様と職員が「野菜を育てる」という一つの目的に取り組めたこと、そしてご利用者様のこれまで見たこともない別の表情を見ることができた充実した期間でした。

当施設の周辺は農家が多く、ご利用者様のご家族も農業に携わっています。そして若いころは一家の大黒柱として農業に携わっていたご利用者様が昔を思い出して野菜作りに参加し、施設を利用する他のご利用者様との会話で忘れていた昔を思い出してもらえたかと思えます。

野菜作りの真似事で始めたプロジェクトであったが、ご利用者様・ご家族様・職員が共通の話題で話す機会が増え、またご利用者様々々にご自身の思いを野菜作りを通して感じとることができ、プロジェクトの成果は大きかったと感じます。今後も今回の経験を礎にして、ご利用者様が主体となって参加できる企画を検討し実施していきたいと思えます。